

## Aちゃんの一等賞

Aちゃんは小学校の2年生です。

Aちゃんは運動会が始まる前、早く運動会が来てほしいような、来てほしくないような複雑な気持ちでした。

なぜなら、みんなとダンスをするのはとても大好きで楽しみにしていたのですが、走ることは大の苦手で、50メートル走ではいつも最後にしかゴールできなかったからでした。

運動会当日まであと少しという日、今日もAちゃんの苦手な50メートル走の練習があります。

「いいお天気や。50メートル走の練習あるなあ。学校休みたいなあ。」

朝起きて空を見上げ、さわやかに晴れた空とは裏腹にAちゃんの気持ちは沈むのでした。

Aちゃんと仲よしのBちゃんは走るのが速く、いつも一番でゴールします。

「今日もやっぱりビリやったなあ。それにくらべて、Bちゃんは走るのが速くていいなあ。いつも一番でうらやましいなあ。」

ため息をつきながら、Aちゃんは次のダンス練習の準備へと急ぐのでした。

運動会の練習の時間が終わりました。

AちゃんはBちゃんと一緒に教室へ帰ろうと声をかけますが、Bちゃんはなんだか元気がありません。

「どうしたん？」

「Aちゃんはええな。うらやましいわ。」

「なんで？」

「だって、Aちゃんはダンスがものすごく上手やん。わたしは間違えてばかりでうまく踊れへんからダンスが大嫌いや。Aちゃんがいつも教えてくれて助かってるわ。ダンスの時のAちゃん、カッコいいで。」

「そうかなあ。」

「でも、わたし、Aちゃんに負けんようにダンスがんばるわ。Aちゃん見ながら一生懸命踊るで。」

「うん、がんばろうな。わたしも50メートル走は苦手やけど一生懸命走るわ。」

運動会の後、Aちゃんは感想に書きました。

うんどう会で、わたしが一番がんばったのは50メートル走です。それは、友だちとやくそくしたからです。50メートル走のれんしゅうで、わたしはいつもビリだったから、きょうこそはと思ってがんばったけど、やっぱりビリでした。でも、先生やみんなも大きな声でおうえんしてくれたし、自分でもとてもがんばれました。

うんどう会でいちばん大じなものは、気もちだと思います。自分もがんばれ、みんなもがんばれという気もちで、大きな声を出しておうえんもできました。わたしはこのうんどう会で、気もちで一とうしょうになれたかなと思います。